以後七日に至る期間は連日荒天の爲視界不良なりしに係らず閘北及滬寧、滬杭鐵道沿線上空の偵察及敵陣地の爆撃に從事した。此間二月五日の空中戰は特筆すべきものであつた。

二、二月五日の空中戰鬪

南京に在りし敵軍の飛行機が上海附近に飛來して十九路軍の麾下に屬せしことは既に我軍に於て之を諜知するところであつた、然し初めて敵の機影を見たのは一月三十一日加賀飛行機が虹橋飛行場上空を偵察したときであつて其時支那飛行機らしきもの一機を認めたのが最初の敵影であつた。其後我陸戰隊に於ても警戒中二月五日敵の

最初の敵影

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

飛行機數機は陸戰隊本部の上空に顯はれ爆彈二個を（新公園に）投下して去つた、此日閘北戰線に於ては諸隊一齊に進出して掃蕩戰を決行しつゝあつた際で敵飛行機の跳梁は默過すべからざるものであつた。是より先き鳳翔より左の戰鬪機三機、偵察機二機より成る一隊が閘北及眞茹方面に敵狀偵察の爲めに派遣せられた、

偵察機隊
小隊長
平林（長元）大尉　(1)小林一空曹（操）平林大尉（偵）
兒玉三空曹（電）
(2)田中大尉（操）八木一空曹（偵）
鈴木一空兵（電）

戰鬪機隊
小隊長

軍令部戰史編纂原稿乙　花崎納

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

最初の空中戰鬪

(1)所（茂八郎）大尉　(2)加藤二空曹　(3)柴田三空曹

各隊は午前九時三十分母艦を進發して閘北眞茄方面に向ひ、折からの陰雲を冒かして午前十時過眞茄上空に達した。此の時所大尉の率ゆる戰鬪機隊は地上より敵の射擊を受けたので單縱陣となり開距離を保ちつゝ高度五百米位に下降して敵陣を掃射した、然るに十時四十五分頃敵コルセヤー型戰鬪機三機突如として雲中より顯はれ我が二番機一番機の順に後方より射擊し來つた。（三番機は急上昇雲中に入り一時見失ふ）、そこで一番機は直に左に急旋回し敵の二番機の後方に占位し射距離三百米にて後下方より射擊二回を行ひたるも遂に雲中に敵を見失つ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

た、二番機は一番機に先ち敵二機の射撃を受けたるを以て直に右旋回したが此時前上方好對勢にある他の敵單葉機一機を發見直に之に向つて攻勢を採つたが射距離に達せざる前に敵機は雲中に逃げ去つた、然るに更に十時五十五分頃味方偵察機二機（加賀機）に對し攻勢を採らんとする敵一機を發見し直に之に向つて追擊射距離三百米に近つき後下方より射擊したがまた敵は斷雲中に逃れ去つた。平林大尉の率ゆる偵察機隊は分離行動にて眞茄の敵陣地爆擊中午前十一時十分頃コルセヤー型敵戰鬪機三機襲擊し來り一機は我一番機に二機は我二番機に向つて射擊した我兩機は之に應酬して交戰し射擊を行ふこと五

軍令部戰史編纂原稿航乙（花崎納）

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同有效なる射撃を加へたが午前十一時三十五分に至つて敵機を見失つた、そこで偵察機隊は虹橋飛行場の上空に到り敵機を監視したるも敵影を認めず依て母艦に歸つた。

敵の航空機隊

此の空中戰鬪に參加した敵の飛行機は航空第六隊（長黄飛行機五機）及第七隊（長張毓行飛行機四機）の九機（ユレカー、リンコック一、ダクラス四、コルセア三）なりしものの如く推定された。敵の飛行機は當日午前七時南京を發し昆山附近に於て我戰鬪機と交戰し、午前十一時前後虹橋飛行場に着陸、暫時にして離陸し再び飛行場附近にて空中戰鬪を交へ杭州（筧橋）飛行場に退き次で一部は南京へ一部は江西及蚌埠へ去つた。本戰鬪に於てリンコック機

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を操縦した朱達は先づ腸部に重傷を負ひて着陸するや第六隊副長黄毓全は之に代り飛揚せるが登ること百尺に至らず墜落して死した、「飛將軍歌」と稱する詩の前書に曰く

敵機墜落

「航空軍第六隊黄副隊長毓全ハ航空術ニ精通セシガ二月五日上海眞茹ノ作戰ニ於テ難ニ殉ゼリ、初メ第六隊ノ飛行員朱達ハ先ヅ負傷シテ下降ス、然ルニ毓全時機ノ危急ナルヲ見テ身ヲ躍ラシテ機ニ搭リ、直ニ離陸シテ上昇シ戰ニ應ゼリ然ルニ機體ニハ既ニ巨創ヲ被リ居リシカ審ラカニ點檢スルニ及バズシテ上昇シ登ルコト百尺ニ至ラズシテ墜落、人機共ニ損ズ」

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

とあるから我空中射撃の効果ありしことは明確であつた、之の空中戰は實に我が海軍航空隊に於ける記憶すべき最初の戰鬪記錄である。

矢部機の奮戰

此日矢部大尉は偵察機第二小隊を率ゐ午前九時二十七分母艦加賀を出發し園山大尉の率ゐる偵察機第一小隊及玉井大尉の指揮する戰鬪機隊と共に敵情偵察並に爆撃の爲め閘北眞茹方面に向つた。矢部大尉の指揮せる偵察機一番機（二一三五〇號機）の搭乘者は左の如くであつた

小隊指揮　海軍大尉　矢部讓五郎
操縱　仝　藤井齋
電信　三等航空兵曹　芥川良平

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

各隊は午前十時四十五分上海上空に達し此處より分離行動に移り矢部小隊は午前十時五十分眞茹驛上空に達した我飛行機を望見せる敵は盛んに地上より射撃を開始し砲銃彈は雨霰の如く機の前後に飛來した。此間に在て藤井大尉は大膽にも偵察の目的を達すべく下降し眞茹鎭の北方五百米附近に敵の集團らしきものに對し之を確かめんとして高度四百米に至り旋回飛行の上尙も下降し之を爆撃せんとして左旋中午前十時五十三分敵の一彈は操縱中の藤井大尉に命中し之を斃した、次で機は操縱の自由を失ひ緩除なる左錐揉に入り遂に墜落、火を發して三勇士は壯烈なる戰死を遂げたのであつた。僚機たる勝部航空

軍令部戦史編纂原稿紙乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

兵曹の二番機も此時盛なる射撃を受け敵彈一發は增設燃料タンクを貫きガソリン噴出する有様となつたが敢然敵陣地を目掛け下降して爆彈六個を投し些か乍ら勇士の靈を慰めて歸艦した。

三、支那空軍の情況

上海事變突發當時に於ける支那空軍の所在編制等は概ね左の如くであつた

所在と編制

◎南京空軍

所在	飛行場	隊名（長名）
南京	大校場	（第二隊（石邦藩）第四隊主力（楊鶴霄） （第五隊主力（田曦）第六隊（曹）
蚌埠		第一隊（晏玉琮）

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp